



「未来の幸せ」を考える① ～「創造」～

校長 山田 哲哉

小針小学校の教育目標は、「創造・健康」です。シンプルながら、力強く響く目標です。今号では、「創造」を窓口に、子どもたちの「未来の幸せ」について考えてみます。やや古いデータですが、1983年に、日本創造学会会員に実施した「創造とは何か」のアンケートに対する回答の一部を紹介します。

- ・問題を解決する、素材の新しい組み合わせ、新たな視点の発見。
- ・異質の情報や物を今までにはない仕方で結合することにより、新しい価値あるものをつくりだす過程。
- ・事物の中にある古い結び付きを解体し、新しい結び付きにつくりかえること。

共通しているのは、まったくの「無」「ゼロ」から何かを生み出すのではなく、元々あるものを基に、新しい結び付け方で再構成することを「創造」ととらえていることです。

図画工作を専門とする私は、「そうそう！」と納得しました。

図画工作の授業中に聞く子どもの言葉で一番うれしいのは、「いいこと思い付いた！」です。「いいこと」とは、どんなことなのでしょう。大人にとっては、取るに足らないことかもしれません。しかし、子どもにとっては、わくわくする瞬間、次の活動へのエネルギーとなる瞬間なのです。これは、ほかの教科にもいえることです。

いいことを思い付いたとき、子どもの頭の中はどうなっているのでしょうか。漫画なら、頭の上の吹き出しに電球が点灯する場面でしょうか。しかし、現実には頭の中は見えません。おそらく様々な情報が、短い時間の中で、子どもの頭の中を駆け巡っています。そして、これまでの経験、記憶、既にもっている知識、自分で調べた様々な情報等と、目の前の問題や課題とがつながり、「ここをこうしたい」「そのためにはこうすればいい」と、「いいことを思い付く」のです。正に「再構成」そして、「創造」です。



教育ビジョンの冒頭に、「子どもたちの『今の幸せ』と『未来の幸せ』を保護者・地域の皆さんと共に創っていきます」と掲げました。

「未来の幸せ」のために、小針小学校では、子どもたちの「応答力」を育成することを目指しています。次のような力です。(取組についてはP2参照)

身の回りに生じる様々な状況・問題に対して、自分を開き、自らもてる力を総動員して、異なる多様な他者と協働して力を合わせながら、最適な解決方法を探し出していく力

これも正に「再構成」そして、「創造」といえます。

「最適な解決方法」にたどり着いた時、子どもたちはきつこう言うでしょう。

「いいこと思い付いた！」と。

日々、この言葉を聞くことができるような授業、教育活動を展開したいものです。子どもたちの「未来の幸せ」のために。